

SNS 利用における被害と問題点について

The Damage and Problems in use of SNS

久保田 紘一, 本田 啓資, 山崎 裕紀
Kouichi KUBOTA, Keisuke HONDA, Yuuki YAMASAKI
大東文化大学 経営学部
Daito Bunka University Faculty of Business Administration
Email: xxxmusixxxxx@gmail.com

あらまし：近年、爆発的に、インターネット上のコミュニティ型 WEB サービスである SNS の利用者が増加している。以前は未成年者がアダルトサイトや有料サイトにアクセスし、詐欺に遭うというパターンが多かったが、最近では SNS の利用者増加に伴い、若者による SNS を利用した問題が目立ってきている。そこで我々は、利用状況について調査を実施し、SNS 利用における被害状況と問題点、また、どのような対策を取るべきか検証した。

1. はじめに

警察庁の HP によれば、近時、出会い系サイトに起因して犯罪被害に巻き込まれる児童は減少傾向にあり、また、コミュニティサイトに起因して犯罪被害にあった児童についても平成 23 年初めて減少に転じ、この減少傾向が続いているとの報告がある¹。

SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）とはインターネット上のコミュニティ型の WEB サービスである。

この資料によれば、平成 24 年上半期に検挙したコミュニティサイトに起因する児童被害の福祉事犯等は 599 件（被疑者 483 人、被害児童 509 人）であり、犯行動機のほとんどは児童との性交目的（7 割以上）を含め、接触目的が 9 割以上を占めている。また、年齢、職業等プロフィールを詐称した事例が 4 割以上を占める。

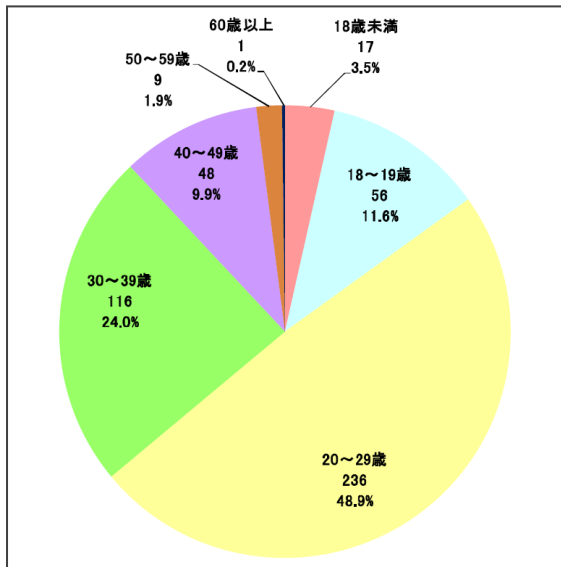


図 1. 被疑者の年齢(警察庁 HP より)

被疑者の年齢は、20～29 歳が約半数（48.9%）を占め、30～39 歳が 24.0%と続いている（図 1）。

被害サイトを選んだ理由として、「無料だから」が 45.9%，続いて「友達のすすめ」が 26.9%となっている（図 2）。

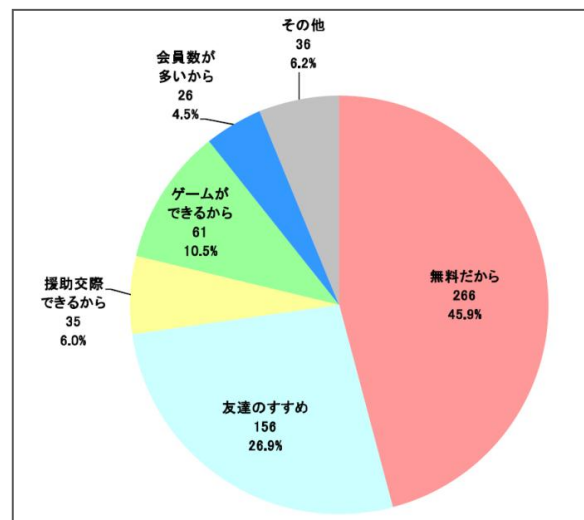


図 2. 被害サイトを選んだ理由(警察庁 HP より)

近年では SNS の利用者が増え、それに従い、SNS を利用した高額請求等の事件などが増えて来ている。

たとえば、未成年者が SNS サイト利用時に高額請求をされた事例や、SNS における有名人のなりすましのケース等がニュースに取り上げられている。

また、気付かないうちに個人情報を収集、悪用されてしまうケースや、前述したプロフィールを詐称し、自分の年齢を同世代だと偽り、近づこうとするケース等がある。

本稿では、このようなマイナスイメージの伴う SNS について、アンケートを実施し、SNS の現状と問題点を検証するものである。

2. アンケート調査結果

被験者は大東文化大学学生 61 人、アンケート実施

¹ 警察庁 HP サイバー犯罪対策広報資料（平成 24 年 11 月 5 日）
<http://www.npa.go.jp/cyber/statics/h24/h24deai-bunseki.pdf>

時期は2012年12月である。

まずSNSの利用状況であるが、61人中53人が利用しているという結果となった(図3)。

利用者はとても多く、若い人の9割近くがSNSを利用している。始めたきっかけは「友達の紹介」や「流行っているから」などが多かった。

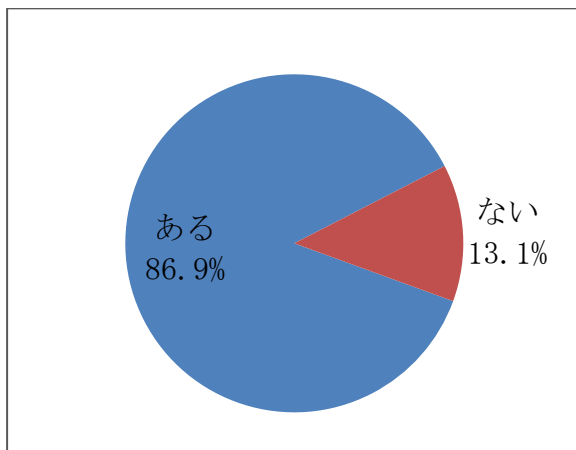


図3. SNS利用の有無

次にどのSNSを利用しているのかを調べたところ、「Line」が一番多く、ほとんどの学生が利用していた。

続いてツイッター、ミクシー、モバゲー、グリー、フェイスブックの順に利用している人が多いといった結果になった(図4)。

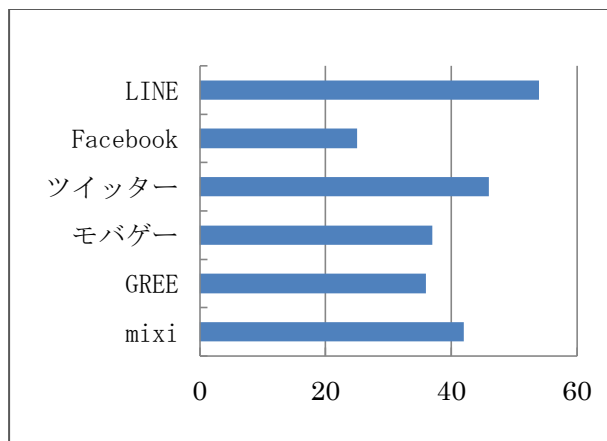


図4. どのSNSを利用しているか

アンケート結果で、「友達と連絡を取り合う」という利用目的が多かったので、連絡を取るのに便利なLineを使っている人が多いのだろう。

次にSNSでトラブルに巻き込まれたことがあると答えた人は53人中3人であった(図5)。

これは件数としては少ないが、十分身近な問題だといえるだろう。

具体的にどのようなトラブルに巻き込まれたのかをたずねたところ、「SNSを通じてワンクリック詐欺のメールが来た」、「Twitterでアカウントを乗っ取

られて勝手にツイートやフォロワーにダイレクトメールを送られていた」、「SNSのプロフィールに友人の名前を使い誹謗、中傷、暴言等の被害をなりすましによって受けた」等があり、どれも深刻なトラブルであり、対策が必要であろう。

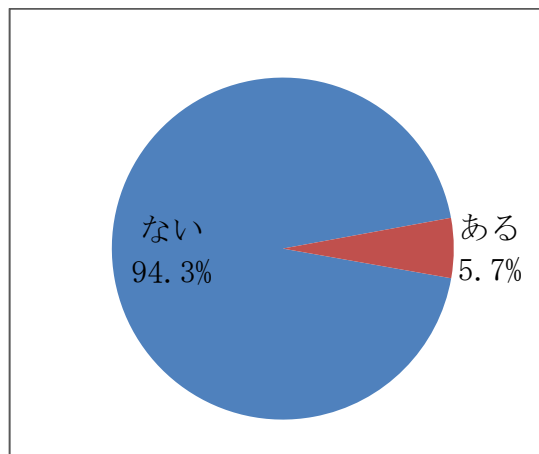


図5. SNSにおけるトラブル経験

3. 今後の課題

紙面の関係ですべてのアンケート結果をここで紹介することは出来ないが、SNSの利用について、被験者の多くが概ねプラスのイメージでとらえていることがわかった。

多くの問題点があるSNSではあるが、確かに便利なツールであるといえる。

しかし、一歩間違えれば、いつ被害者になってもおかしくない危険なツールであることも真実である。

その中で、安全に利用するためにはいくつかの工夫が必要だろう。

たとえば安全なページだけを登録し、それ以外のページにはアクセスできないようにするホワイトリスト方式や、有害ウェブサイトのブラックリストを作成し、リストアップしたアドレスを通信事業者がブロックするブラックリスト方式等いくつかの対策があり、このようなシステムを利用するのも一つの手であるだろう。

しかし、最終的には利用者の意識を高め、安全に利用できるようにするために、小中高や大学等で十分な教育を実施していくことが、一番確かで有効な対策であるだろう。

参考資料

- (1) 警察庁 HP サイバー犯罪対策
<http://www.npa.go.jp/cyber/statics/>